

地域だより ささえあい

(社会福祉法人大和郡山市社会福祉協議会 編集)

2022年
(令和4年)

6月

第1号



いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らすためには、どうすればいいのでしょうか？

趣味や特技を活かした活動やつどいの場を充実させて、笑顔があふれる地域、お互いさまの思いやりと支えあいの仕組みを地域の皆さんと一緒に考えていきます!!

大和郡山市社会福祉協議会では、「地域の課題解決力を育む地区社協づくり」を目指して、地区社協と協働で、課題解決サイクル「地区社協 大和郡山モデル」の構築に向けて取り組んでいます。

- ①住民同士がつながりをもち、生活・福祉課題に気づく (発見する)
- ②住民参加による生活・福祉課題を共有、解決する
- ③生活・福祉課題を共有し、新たな活動を生み出す

【地区社協 大和郡山モデル】



「はるみちミーティング」開催

治道地区では、平成30年度に実施した地区懇談会や、令和3年度に実施した「若年層に対するアンケート調査」の結果などをふまえて「はるみちミーティング」を開催しました。

日時	令和3年11月28日(日)
場所	治道地区公民館
参加者	30～50歳代の住民 24人 地区社協理事 7人

平成30年地区懇談会で出された理想の治道地区の姿

- ① 若者が頑張っている町(若年層や女性の意見を尊重できる、地域活動への若者の参加 など)
- ② どんな世代でも集まってワイワイできる場所、行事がある町(みんなが積極的に集まる場、若者が住めるまち など)
- ③ 子どもから大人まで集まれるまち(若い人の意見が出てくる自治会、新しい人を受け入れられる意識がある など)
- ④ コミュニケーションができるまち(助け合いができるまち、昔ながらの風習が残っていて若い人が理解できていない など)

役員へのヒアリング (令和2年度)

地域活動の担い手の減少・高齢化、地域活動への参加者の減少 (若年層へのアプローチが必須)

統計データ：少子化・高齢化・過疎化の進行

若年層対象アンケート (令和3年度)

- ★地域活動に関心があるが、参加していない人は3割
- ★少子化、若者の流出、過疎化、生活不便等への不安大
- ★治道地区で暮らしていくため、できること・やってみたいことは「地域組織の体制・活動内容の見直し」「身近な交流の創出」「助け合い等の仕組みづくり」

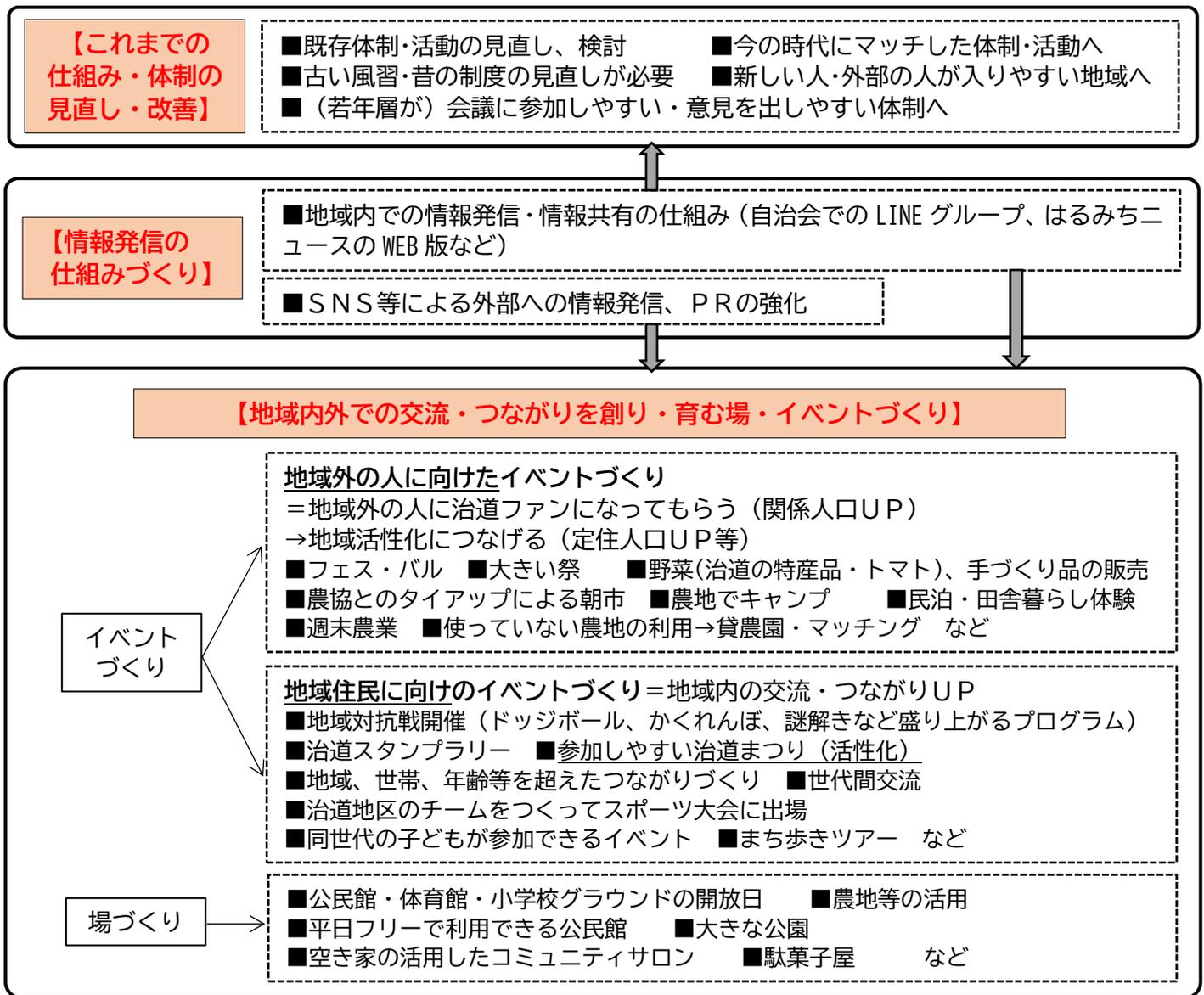
理想像(少子高齢化・過疎化が進む治道地区で必要なこと) =

若年層(20～40歳代)が地域活動に参加・参画している!

はるみちミーティングの目的：「若年層が地域活動に参加・参画している」を実現するために、

必要な条件・環境、必要な取り組みを整理する。

はるみちミーティングで話し合った内容(まとめ)



●はるみちミーティングの結果は？

はるみちミーティングで話し合った結果を踏まえ、治道地区社協において、具体的な環境整備、取り組みの進め方などを整理・検討し、令和4年度からの実践につなげる予定です。



【地区社協ってなに？】

市内には8つの地区社会福祉協議会（略して地区社協）があり、地域住民をはじめ、自治会、民生・児童委員、老人会、PTAなど、各種団体やボランティアらが主体となって、住民一人ひとりの生活・福祉課題を地域の課題として受けとめ、「誰もが安心して暮らすことのできるまちづくり」を推進する住民組織です。住民相互の支えあい活動を広げるため、講演会や世代間交流事業を開催したり、高齢者の見守り活動や健康づくりなどに取り組んだりしています。

高齢化が進むなか、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、住民同士のつながりや見守り、支えあいの仕組みが必要となります。

生活支援体制整備事業では、地域の皆様とともに身近な地域での支え合いの地域づくりを進めます。（大和郡山市委託事業）

【問合せ】大和郡山市社会福祉協議会 福祉課
 大和郡山市植槻町3-8社会福祉会館内
 電話 53-6531/FAX 55-0986